

福島県郡山市仮設訪問・・・

「いつになったら帰れるのか？」



こんにちは
兵庫県から
来ました (^-^)

震災、原発事故から2年5カ月。私(黒田)は8月24日から3日間、福島県に入りボランティア活動を行いました。4度目の訪問です。

8月24日(土)、金田峰生東日本大震災救援・復興闘争本部事務局長運転の車に3人。兵庫県産玄米と「六甲の水」をお土産に8時過ぎ川西能勢口を出発。高速道路を乗り継いで夕方6時前、「郡山市被災者支援センター」に到着。
23℃、爽やかな晴天が迎えてくれる。

培われた信頼、ここに

郡山地区・被災者支援センターの大橋責任者と活動の打ち合わせ。訪問先の「緑ヶ丘仮設住宅」は、ずっと支援に入ってきたが、「戸別訪問」はかたくなに断られてきた経過があること。日常的に訪問、支援を繰り返しながら活動を工夫。

一緒に作って、みんな食べる大阪の「お好み焼き炊き出し」支援が大好評だった経験を踏まえ今回、戸別訪問に加えて「住民の方との交流・懇談会」を申し入れ、快諾されたこと。数日前に、私たちの訪問を知らせるチラシを全戸に配布し、準備完了との説明を受ける。

時の経過とともに移りゆく人々の現状に寄り添いながらの活動。その誠実さと培われてきた信頼の賜物だ。「参議院選挙で福島の場合例票は前回の倍」との報告と合わせて納得。

「共産党訪問」の

アナウンス

25日(日)、支援センターと一緒に訪問する方や民青同盟の若者と打ち合わせ。党員の畑で採れた箱一杯の「黒豆の枝豆」や「六甲の水」、米を乗せて仮設住宅へ出発。

富岡町緑ヶ丘応急仮設住宅自治会長さん達に迎えにいたいただき、2人1組・5チームが約90件のお宅を訪問。
「今から日本共産党の皆様さんが伺います。」と自治会長さんの声が放送で流れる。「こんなの初めてです

よ。」と嬉しそうな責任者。

「阪神・淡路大震災で世話になった兵庫県から来ました。」と1件1件訪問。いろいろお話を伺い、午後からの「交流・懇談会」にお誘いする。

交流会

先の見えない不安

「交流・懇談会」には、仮設住宅から17人、神山悦子県議も来られて、集会所の部屋は一杯。
「帰れるかどうか、はっさきりしてほしい。」2年5カ月経っているのに全く先が見えず、汚染水流出問題も含め、「収束」とは程遠い現実。「誰が責任を取ってくれのか」「同じ富岡町なのに

みんなが

帰れるように

一方で「この仮設はみんな同じ町民だから安心」「高齢者の見守り体制が喜ばれている」の声も。時間の経過と共に住民自治が生まれ育っている。
「町っていうのは役場があるって、学校や病院があつて、ちゃんと機能したらんといかん」。

避難指示区域の変更などに翻弄されながらも、帰宅できない人を気づかい、家族と一緒に住めることを切



故郷ではおいしい水を飲まれていたので「六甲の水」は喜んでいただけなんですよとの事。お米と一緒に袋詰め・・・



自治会長さんや副自治会長さん
現地スタッフの方々と・・・
(集会所前にて)

に願ひ、新しい町へと希望を託したい声も。
地震や津波で亡くなった方、避難先で亡くなってしまった方への想いが語られる。その無念さに胸が詰まる。
自治会長が「みんなが気持ち良く住めるように、この仮設から出ていくことができるように・・・」と挨拶された言葉に全てが凝縮されている。



気軽に話せた「交流・懇談会」

訪問と懇談が終わり、支援センターで「活動のまとめ」と神奈川県議の報告、学習会。

高橋善治郡山市議も参加。

はじめて戸別訪問が受け入れられ、4グループに分かれた「交流・懇談会」は、「ひとりひとり、みんなが気軽に話せて良かった。」「やっぱり仮設に住んでいる人に学ぶことだ」その思いや願いをどうつなぎ、広げていくか。仮設住宅と周辺住民との連携や仮設住宅同士の連携など新たな課題も見えてくる。

最後のおひとりの支援が終わるまで

神奈川県議からは福島県の震災後の現状と「住民合意」を大切にしながら復興住宅や廃炉の問題などについての県議団の取り組みが報告され、資料を交えて学習会。改めて国の責任が問われている、と痛感する。「絶対忘れない。阪神・淡路大震災の教訓を生かすこと。最後のおひとりの支援が終わるまで」、聴かせていただいた声と共にしっかりと胸に刻んだボランティア参加でした。



緑が丘仮設住宅・・・「懐かしい建物だなあ」との印象通り、阪神・淡路大震災の時と同じ「基準仕様」。シャワーしかないお風呂、断熱材も入っていない床や壁、蟻や虫が這いあがってくる隙間・・・入居しながら何度もやり直しが行われたそうです。「仮設」で2年5ヶ月目・・・「基準」を人間らしく生活できるものに変えて欲しいです。

兵庫県女性後援会は11月14日(木)～16日(土)泊3日・郡山市へのボランティア(炊き出し・訪問・観光等)を予定しています。詳細のお問い合わせなどは、黒田みちまでご連絡ください。

携帯 090 9987 7909

私ん家は、9時から3時まで帰れるようになったんだ。墓参りに行けてねえ、年寄りには喜んでたよ。まだ帰れない所もあるからねえ・・・。

孫達と別居だろ・・・こんな狭い所では暮らせねえ・・・みんなバラバラだあ・・・。



ひきこもごも 悲喜交々

帰れ、帰れって言うけど、どうしたら帰れる？役場もない、学校もない、病院もない・・・町っていうのはちゃんとしなかったら住めない。当たり前だろう？



あんたね・・・やることないくらい辛いことないよ。家も広かったし、畑もあったからね・・・。

まだまだ見通せないわ・・・全然。ストレスためないように頑張ってるよ。

部屋の中には いたくねえ・・・ ずっと畑作ってたからねえ こうして花の種とってるの・・・来年植えないとね・・・あげようか？ あんたも植えたら良いよ。

帰れねえことくらいわかってるさ。もう帰れないって言うてくれたら良いのに・・・。息子の仕事がなくなってね。嫁さんももらえねえ。



あの日 目の前で愛する人を亡くした
あの日 地震や津波で被害はなかったのに「放射能」で家を後にした
あの日 今まで積み上げてきた財産をそのまま置いて来た
あの日 避難先を転々として 亡くなっていった方 魂を送り 生き残った自分達のこれから
「阪神・淡路大震災を経験した 兵庫県から来ました・・・」 そのことで うんと距離が近くなる
明日へと希望を繋ぎたい
「そりゃあ 美しい海だったよ おいしい水と美しい夕陽 家族と一緒に 毎日毎日畑で仕事 73年一度もそこから出たことなんてなかったんだから・・・これがはじめてだよ」
前の見えない毎日 それでも小さな幸せや 感謝の中で 精一杯生きておられる皆さん 真面目に生きている者が 報われる社会を 誰もが幸せになる国を・・・